

オープンホスピタル高校生部

2007年度 感想文

沖縄尚学高校 2年1組 仲本昌文

今回オープンホスピタルに参加して、多くのことを学び、考えさせられました。この行事に参加する前は「なぜ医者になろう。ほんとに意思なのか。」とっていました。しかし、参加した後は、「高校でおこなっているボランティア活動にもっとも近い職業だし、医者にならなかつたら自分が一番後悔する。」と今では思えます。宮城副院長の「病院は患者さんを中心になりたっていて、決して医者が一番偉いわけではない。」という言葉がとても心に残っています。医者のあり方、医療の成り立ちを考えさせられました。私は医療という仕事を目指すときに、医者以外は考えていませんでした。それは昔から「医者」と言われていて、他は逃げになってしまうのではないかとっていました。しかしこの研修で、医者だけではなく医療に関わる職業のすべての人それぞれが自分の職に責任を持ち、とても楽しんでいるように見えました。この研修で、医者という職業の奥深さ、病院で働くすべての人が患者さんのことを考えていることがわかり、私も先輩方のように誇れる医者を目指し、沖縄にまた戻ってきて、沖縄のために働きたいです。このオープンホスピタルを主催していただき、ほんとうにありがとうございました。

沖縄県立首里高校 玉城有梨

今回のオープンホスピタルは私にとってとても貴重な体験になり、改めて医療の大切さや人と人の関わりを学ぶことができました。先生方や事務の方など数多くの人と関わることができ本当に感謝しております。包み隠さずすべて話して下さったことも、それが私にとってこれからどんなに辛くてもがんばろうという気持ちになりました。このオープンホスピタルを計画し、私たちの為に時間を下さった先生方、そして秘書の方々に研修医の先生方本当にありがとうございます。この企画を作るのはとても大変だったと思いますが、ぜひとも来年もこの中部病院で未来の医療者の為にまたこの企画をなさって欲しいです。いつしか私が一人前の看護師として世間に貢献できる人になり、中部病院あるいは他の病院で今の気持ちを大切に、仕事に励みたいと思います。今回は本当にありがとうございました。